

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和8年度 第1回丹波篠山市視聴覚ライブラリー運営委員会
- 2 開催日時
令和8年6月23日（火）10時30分～12時00分
（傍聴の受付時間 10時15分～10時25分）
- 3 開催場所
丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール
- 4 会議に出席した者
 - （1）委 員
松本清一、出口立世、藤原典英、有本美和、
岩崎裕見子、長澤素子、畑 弘恵、松岡美穂
 - （2）事 務 局
社会教育部長 岸野良広
中央図書館館長兼視聴覚ライブラリー館長 田中真紀子
中央図書館主幹 小林康弘
中央図書館視聴覚ライブラリー係長 棚橋直人
中央図書館視聴覚ライブラリー係 多田吉済
- 5 傍聴人の数
0人
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別
すべて公開
- 7 会議資料の名称
令和8年度第1回丹波篠山市視聴覚ライブラリー運営委員会次第
（参考資料 令和7年度実績データ）
- 8 審議の概要
 - （1）開会
 - （2）委嘱状交付
 - （3）部長あいさつ、及び事務局自己紹介

(4) 委員長あいさつ

視聴覚ライブラリーは、子ども達や地域の方々に多様な学びの場、あるいは豊かな文化に触れる機会を創出する重要な役割を担っている。この施設が今後とも拡充し、地域から支援されるために、忌憚のない意見をいただき、充実した視聴覚ライブラリーとなることを願う。

短い時間であるが、活発な意見をお願いします。

(5) 報告事項

「令和7年度事業実施状況について」を、次第に基づき事務局より説明。

質疑応答

(ア) 視聴覚ライブラリー事業

【委員長】

機器貸出し件数減少の原因は、機材が古いからか、皆が持っているからか。

【事務局】

機材の古さよりも、それぞれが所持しているからと考えられる。

【委員】

『事業の効果』における市内3高校の学校紹介映像は、どのような支援をしたのか。

【事務局】

中学校に市内3高校の教職員が来て「学校説明会」を行っている。支援はその様子の撮影である。目的は、当日参加できなかった生徒や関係者、保護者等が、後日見られるようにするものである。教育研究所のホームページから見るができる。

(イ) 地域映像配信事業

【委員】

高齢者大学では講師となって授業をしたのか。

【事務局】

「講師」となって、ライブラリーの活動や、アーカイブ映像を紹介し、「さような篠山線」や、昭和中期の商店街の様子などを、なつかし映像として観てもらった。

【委員長】

まるいのテレビは、直接反応が返ってくるのか。

【委員】

直接の反応は少ない。鳳鳴高校の生徒が頑張ってるね、という声は聴くので、映像の中にもう少し高校生が登場しても良いのではないかと思う。

最近は収録の見学も少ないと感じる。

【事務局】

収録の見学については、収録が学校の時間外に行われるので参加しにくいかもしれない。高校生については、スタジオ収録より「体験レポート」に参加していただき、映像に出演してもらっている。

【委員長】

高校生が頑張っているまちは元気がある。地域に働きかける場をつくるのは大事なことだと思う。

平均視聴回数の435回は、多いのか少ないのか分からない。

【事務局】

テーマによって変わるが、多い時は800回から1,000回を超えるときもある。行政からの連絡がテーマの時は減少する傾向がある。

【委員】

病院で放映されていて、高齢者が観るのは良いことと思うので、そういう場が増えてほしい。病院では音声を消しているのが残念だ。

【事務局】

できるだけ字幕を入れるようにしている。

(ウ) 情報化推進事業

【委員】

ICTふれあいサロンの利用者で、70代・80代の利用者の利用目的は何か。

【委員】

毎回来られている方たちは、学びの場として「エクセルで計算ができた」など、達成感を感じておられる。初めてや、時々来る方は、地域の資料や、趣味の文書などを作る方がおられる。

【委員】

水曜日に来られる方たちは、友達同士で楽しみとして利用されている。

【委員】

高齢者大学の「パソコン講座」の受講者に「詳しくは図書館のICTサロンで」と案内することもある。

【委員長】

ICTサロンと高齢者大学で、互いに補完できていて良いのかもしれない。パソコンを介して交流できているのだから良いことだと思う。

(エ) 丹波篠山映像祭事業

【委員】

去年は内容が盛りだくさんで、スタッフも多く、楽しめた。

【委員長】

内容も良かったと思う。「生きる」というテーマは少し重かったが、「いまを未来へつなぐ」というテーマでいろんな映像があり、良かったと思う。

応募件数の減少は、テーマの変更が原因か。

【事務局】

原因の一つではあると思う。

【委 員】

今までは高齢者の応募が多かったが、去年は若い人、学校単位の応募などあり、全国的に注目されていると感じた。

(6)審議事項

「令和8年度の事業推進について」を、事務局より説明。

質疑応答

(ア)視聴覚ライブラリー事業

【委員長】

視聴覚ライブラリーが制作する「ドキュメンタリー」について、去年は「山城」がテーマだったが、今年の予定は何か。

【事務局】

「山城」を考えている。

(イ)地域映像配信事業

【委員長】

まるいのテレビについて、7年度実績状況報告時の意見にもあったが、高校生の出番を増やしていただけるようお願いする。

今日の丹波新聞に「スマホで始める～チャレンジ講座」が掲載されていた。こういう記事を見ると、いろんなことをやっているなど実感する。

【委 員】

この講座は講師も充実してたいへん楽しい内容である。広報活動として、チラシはいつから、どのような場所でどれくらい配布しているのか。

【事務局】

広報紙に記事を掲載した。チラシは先週から図書館、市民センター、各支所で配布している。また市内の高校で3年生を対象に配布した。すでに3名の応募がある。

【委員長】

多い場合は抽選になるが、できるだけ増やせないか。難しいとは思いますが、意欲を持って応募するのだから、増やすことができればと思う。

【事務局】

編集などは講師とマンツーマンになる場合もあり、対応が難しいと考える。

【委員長】

映像を撮ることは小学生でもやっているのか。

【委 員】

教材の中で映像を扱う場合もあり、個人的には、子供たちには映像制作にぜひ取り組んでほしいと思っている。

現在の小学校の学習指導要領の中で、学習の基盤となる資質能力の一つに「情報活用能力」がある。これは次期学習指導要領でも重要視されており、市に視聴覚ライブラリーのような施設があることは、子どもたちにとって大きな力となる。

多くの学校に対して、視聴覚ライブラリーが関わって教育を進めることができれば、大きな力になると思う。

「情報活用能力」を高めるためにも、映像制作に小さい時から関わってほしいと思う。現在、主として高校生を取り上げて頂いているが、できれば次年度から、小学校、中学校との関わりをどうしていくかを加えていただきたい。

【委員長】

視聴覚ライブラリー側から学校に働きかけるのは難しいと思われる。学校側に映像制作のメニューなどがあれば支援も可能と思う。重要視されている内容なので、視聴覚ライブラリーを活用する機運を高めて活用していただければ良いと思う。

【委員】

これまでに、総合的な学習の時間のまとめを映像にして出力しているので、視聴覚ライブラリーと学校との連携の方法を探っていきたい。

【事務局】

視聴覚ライブラリー事業を学校の教職員に伝えるため「教育情報化リーダー研修」において、視聴覚ライブラリー事業の説明枠をいただいた。「初任者研修」においては、図書館に来られた方には詳しく説明したが、一人ひとりの先生に対して詳しく説明する機会がない状況である。

図書館、及び視聴覚ライブラリーの活用方法、また映像データベースを紹介すると、こんな活用方法があったのかと驚かれる場合が多い。

視聴覚担当の教職員が集まる会などあれば、視聴覚ライブラリーの職員が出向いて説明したいと考える。

【委員】

会を招集するのは可能だが、その前に、具体的に「この教材に対してこの映像が使える」などのリストの作成から、協力して作業できればと考える。

【委員長】

第2回運営委員会の際に「学校との連携」という項目を追加して報告願う。

【委員】

高校生のまるいのテレビへの出演の機会を増やすのも大事だが、それを観てもらうことも重要である。観てもらうためのPRは行っているのか。

【事務局】

現在、高校生に対してのPRは行っていない。

【委員】

せっかく出演してもらうのだから、一部の生徒だけでなく広く認知してほしいと思う。

【委員長】

新規機材への更新について、予算の減額があったのか。

【事務局】

ビデオカメラについては、3台分の予算を要求したが、予算が確保できたのは1台分のみであった。

(ウ) 情報化推進事業

【委員長】

昨年はやめるという意見があったが、現状はどうなっているか。

【事務局】

今年度については回数を減らして運営している。次年度から利用者がサークルなど作って、自主的に活動できるよう支援をしていきたい。

【委員】

利用者からは、無くなると困るという声がある。

【事務局】

利用者に自主活動という方法があるという話をしたところ、是非、方法・道筋を教えて欲しいと要望された。四季の森東館のＩＴルームの申込方法等については調査済みであり、講師の問題等合わせて支援していきたい。

【委員】

来年以降、自主活動をする場合、図書館、視聴覚ライブラリーからはこういった支援が受けられるのか。

【事務局】

支援は自主活動への移行期間のみであるが、運営等についての問い合わせに対してはサポートできていると考えている。

(エ) 丹波篠山映像祭事業

【委員】

高校生審査員とは、鳳鳴高校放送部と連携というイメージか。

【事務局】

市内３高校に１名ずつお願いしている。鳳鳴高校についても、特に放送部という枠にはこだわらない。前は高校の放送部の作品が多く受賞したこともあり、地元の高校生に、映像祭に関わってほしい思いがある。

【委員長】

講評もしてもらうのか。

【事務局】

まだ決めていないが、自分の意見を述べられる人をお願いしている。

(7) 閉会

副委員長挨拶

真摯な検討に感謝する。

本年度の方向性が固まったと言える。皆様のご協力により視聴覚ライブラリーがさらに発展することを願う。